

# 京葉少年野球第40回春季・第38回くりくり選手権大会

## 40回記念大会約12000人参加で開会

### 式典後は恒例の清掃活動も実施

京葉少年野球連盟の第40回記念春季大会兼第38回くりくり少年野球選手権大会千葉地区予選会開会式が4月2日、千葉市美浜区のQVCマリンフィールドで行われた。昭和

52年の第1回大会から数えて今年40回目の大会で、50クラム・Bゾーン39チーム、約1

200人の選手が参加。「祝創立40周年」の祝賀看板を

先頭に、地元の県立磯辺高校吹奏楽部の演奏に合わせて入場行進した。

開会式では前回Aゾーン優勝の磯辺シャークス中西寛人

主将、Bゾーン優勝の打瀬ベイバスターズ八島優成主将から連盟優勝旗が返還された。

選手宣誓は高洲コンドルスの

川野翼主将が「野球ができることを感謝し、仲間を信じ、最高に気合いの入ったプレーをすることを誓います」と力強く宣誓した。

選手たちが見守るなか稲荷スターズの本本健太君（新宿小6年）が投手、父親本本行

洋さんが捕手、祖父慧さんがバッターになっての始球式も行われ、40回目の記念式典の最後を締めくくった。

開会式に参加した選手たちは指導者、父兄たちとともに隣接する幕張の浜でビニール袋を手手に恒例の清掃活動を行い、汗を流していた。



祝賀看板を先頭に入場行進（上）、選手宣誓は高洲コンドルス川野翼主将が行った